

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト 感染防止策チェックリスト(埼玉県による)

1月15、21、22日の3日間にわたり2会場で開かれる第34回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストSVECは、埼玉県合唱連盟より埼玉県へ感染防止策チェックリストを提出し、規定の感染対策を講じて行われます。

リストには、開催概要として会場ごとの収容定員、収容率(上限)、参加人数に加え、**大声の有無**等を記載します。

「**大声の定義**」は、観客が通常より大きな音量で、反復・継続的に声を発し、これを積極的に推奨する又は必要な対策を十分に施さないイベントを「**大声あり**」とされています。

SVECは、「**大声なし**」なので収容定員の100%以内の入場が可能です。また合唱は、クラシック音楽の一分野のイベントで演奏は舞台上のみであると特記しています。

チェックリスト【○、×、—(該当なし)】	
①飛沫の抑制(マスク着用や大声を出さないこと)の徹底	○ 【大声なしの場合】飛沫発生の恐れのある行為抑制のため、マスク(不織布マスク推奨)の正しい着用や大声を出さないことを周知徹底し、そうした行為をするものがいた場合、個別に注意、退場処分等の措置を講じる。 【大声ありの場合】「大声なしの場合」の「大声」を「常時大声を出す行為」と読み替える。
②手洗い、手指・施設消毒の徹底	○ こまめな手洗いやアルコールによる手指消毒の徹底を促す(会場出入口等へのアルコール等の設置や場内アナウンス等の実施) ○ 主催者側による施設内(出入口、トイレ、共用部分等)の定期的かつこまめな消毒の実施
③換気の徹底	○ 法令を遵守した空調設備による常時換気又はこまめな換気(1時間に2回以上・1回に5分間以上等)の徹底
④来場者間の密集回避	○ 入退場時の密集回避のための措置(入場ゲートの増設や時間差入退場等)の実施 ○ 休憩時間や待合場所での密集も回避するための人員配置や動線確保等の体制構築
⑤飲食の制限	— 飲食店に求められる感染防止策等を踏まえた十分な対策の徹底 — 飲食中以外のマスク着用の徹底

—	飲食は、隣席への飛沫感染のリスクを高めるため、可能な限り、飲食専用エリア以外(例：観客席等)は自粛
—	自治体等の要請に従った飲食・酒類提供の可否判断(提供する場合には飲酒に伴う大声等を防ぐ対策を検討)
⑥出演者等の感染対策	○ 有症状者(発熱又は風邪等の症状を呈する者)は出演・練習を控えるなど日常から出演者やスタッフ等の健康管理を徹底する ○ 練習時等、イベント開催前も含め、声を発出する出演者やスタッフ等の関係者間での感染リスクに対処する ○ 出演者やスタッフ等と観客がイベント前後・休憩時間等に接触しないよう確実な措置を講じる(誘導スタッフ等必要な場合を除く)
⑦参加者の把握・管理	○ チケット購入時又は入場時の連絡先確認やアプリ活用の参加者の把握 ○ 入場時の検温、有症状(発熱又は風邪等の症状)等を理由に入場できなかった際の払い戻し措置等により、有症状者の入場を確実に防止 ○ 時差入退場の実施や直行・直帰の呼びかけ等イベント前後の感染防止の注意喚起。

自主開催の場合はどこまで対策しているか

このチェックリストは、埼玉県へ後援を依頼する際に提出するものです。

後援などせずに自主的に開催する場合にも、本来であれば同様のチェックリストを用意して取組む必要がありますが、果たしてどこまでできているでしょうか。

例えば、1月9日に行われた「鷲宮ウインドアンサンブル第30回記念定期演奏会」(埼玉県久喜市)では、聴衆の入場時に非接触検温装置で体温をチェックし、チケットの半券に氏名・連絡先の記入を依頼していました。会場内では司会が、マスク着用、手指の消毒、休憩時の人と人の距離確保について何度もアナウンスしていました。更に、終演後の退場にあたっては、会場を三つに区切り後ろから順に退場するよう密集を避ける配慮が徹底されていました。

現在、新型コロナウイルス感染対策を緩める動きが活発化し、外国からの旅行者も増加していますが、死者数は増加傾向にあり、罹患リスクはますます高くなっています。

自分の身は自分で守るしかありません。